

1月



新羽小だより

令和5年(2023年) 1月10日

第584号

横浜市立新羽小学校

Tel 543-8871 Fax 543-2915

ホームページ <http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/nippa/>

コロナ禍と人権教育

校長 佐藤 恵子



令和5年を迎えました。皆さま、明けましておめでとうございます。新羽小学校は今年も新羽らしさを大切にして「わたしがかがやき みんながかがやく 新羽の子ども」の実現に取り組んでまいります。保護者の皆さま、地域の皆さまの変わらぬご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

さて、令和3年度からこの2年間、新羽小は新羽中と共に港北区の人権教育実践推進校として、小中合同の実践研究テーマ「児童・生徒一人ひとりの良さを認めて伸ばす教育活動の推進」に取り組んできました。教員の勉強会、研究授業、講演会などを通して人権尊重の精神を基盤とする教育活動の実現に向けて、共に研究してきました。

コロナ禍で、友達との密な関わりや地域とのふれあいが大きく制限される中、学校現場では、自分だけではなく他人も大事にしようとする気持ちを育てるために、どうやって人との豊かな関わりを生み出すかが大きな課題でした。そこで、「みんなの安全を守りながら人と関わる手立て」を、子ども達と一緒にたくさん考えました。学年の違う2クラスずつの音楽発表会、VTRを活用した音読朝会、安全に配慮したなかよし交流は、その主な取組例です。また、学習指導では「自ら学び、ともに学び合う子どもの育成～自分の思いを人に伝える力を育成する授業づくり～」をテーマとして全職員で授業改善に取り組みました。自分も仲間も大切に、共に学び合いながら、コミュニケーション能力を高めていく授業づくりを目指して試行錯誤を繰り返してきました。一人一台のGIGA端末は大いに役立ち、子ども達は端末を通して仲間のいろいろな考えに触れ、自分の考えを深めたり広げたりしてきました。

一人ひとりを大事にする学校づくりのために、児童の運営委員会を中心に、「小中合同あいさつ運動」に取り組みました。小中の児童・生徒が朝のあいさつを通して心の交流をしました。あいさつはコミュニケーションの基本です。そして一瞬で相手に思いが伝わる魔法の言葉です。あいさつが飛び交う空間は、温かさや安心感に包まれます。小中で協力して、みんなが安心できる場所にしようとして子ども達自らが取り組んだあいさつ運動でした。



コロナ禍が始まり3年になります。この3年間、社会はさまざまな危機への備えとWithコロナ時代を生き抜く知恵を蓄えながら、急速に変化してきました。しかし、どんなに社会が移り変わろうと、流れの中心には「人の幸せのため」が存在してほしいと思います。人の幸せを願った社会づくりができていないか、社会の一員として誰もがその物差しを持っていないかと思っています。教育も同じです。子ども一人ひとりが大切にされている安心感、一人ひとりの健やかな成長が教育活動の基盤です。新羽小はコロナ禍の人権教育実践を通して多くを学びました。大切な財産として今後の学校づくりに生かしていきたいと考えます。